

燦々便り 126

思い出(3)

いつもテニスが身近にあった学生生活でした。充実した時間であった気がします。が、子どもだったというか自分のことしか考えてなかったのではとも思います。今になって思う事ばかりですが、戦後と言われた時代、大人たちはみんな戦争の苦しみを引きずっていたのですね、戦後生まれの私は全くわかっていませんでした。

なぜなら誰一人自分の戦争体験を話す人はいなかった。知る方法はニュースか、本くらいです。うわさ話のように聞くことはありました。コートのおじさんは満洲から引き揚げてくる時、奥さんも子供も亡くしたんだって！クラブ員のあの人もこの人も引き揚げてきたんだって、など、聞くのはすべてうわさ。

でも、誰もが言う言葉は“戦争は絶対してはいけない”そして兵隊として行き、帰って来た人は皆、自分が生き残った事を苦しんでいるという事を口を揃えて言います。それ以外は口を閉ざす。どれだけの苦しみを背負っているのでしょうか

話しておかねば！と思うようになった人達も何十年も経ってからのようです。世界中戦争は止みません。ニュースで聞くだけでもウクライナやイスラエルなど、戦争は相手を屈服させようとします。でもスポーツは、自分との闘いだと思います。自分にできる精一杯の事をする事しかできませんが、それでもいいと思います

能勢杯

お知らせ 追加登録 パーティ 11 番 宮本 洋子

能勢杯の目的はテニスを通じて、学びあうことです。

お互いの都合を調整しあう、すんなりに行くコトもありますが、その方が少ないと思います。根気よく調整してください。

世話役本当にご苦労様です。大変ですが、大変なほど、がんばりがいがあるものです。

遅刻しても少しのペナルティをつける。話し合いがまとまらなくても試合ができるまで待ちます。こんなバカなルールを受け入れてくださる皆さんに感謝します。

私もそうですが、すぐに結果を求めてしまいます。

時間をかける大切さもあります。

能勢杯は45年続きました。それでもひよっこ

桜、菜の花 春のおとづれが聞こえます。

散歩がてら、テニスの行き帰り楽しんでみては